

筑波大学山岳科学センター
機能強化（調査研究）プロジェクト申請書

申請日 令和4年7月8日

筑波大学山岳科学センター長 殿

代表者

所属： 生命環境系

職名： 准教授

氏名： 興梶 克久

電話番号： ██████████

e-mail： ██████████

下記のとおり調査研究費を申請します。

記

申請区分	どちらかをチェックしてください。			
	<input type="checkbox"/> 重点研究 <input checked="" type="checkbox"/> 個別調査研究			
課題名	中山間地域における集落営林組織の展開過程に関する研究－静岡県を事例に－			
参画者 *4名以上の場合は備考欄に記載	1	氏名：興梶克久	所属：生命環境系	職名：准教授
	2	氏名：高橋 渉	所属：山岳科学学位プログラム	職名：研究生
	3	氏名：張 碩	所属：農学学位プログラム	職名：1年
山岳科学センターの機能強化への貢献	<p>本研究テーマは、山管理と山活用の両部門にまたがるもので、中山間地域の人工林の新たな管理手法として注目を浴びている自伐林家グループによる集落営林の展開過程について社会科学的に分析しようとするものである。これを専門とする森林科学分野の専門家は全国的に見ても少なく、本研究テーマにより山岳科学センターに新たな研究領域の創出の足掛かりが得られると考える。</p> <p>また、本研究テーマで事例に取り上げる静岡県の中でも安倍川・大井川流域では自伐林家の活動が活発である。本流域には本学演習林（井川）があることから、地域振興への寄与という観点からも、山岳科学センターの機能強化に結び付くと考える。</p>			
研究・事業の目的	<p>本研究は、静岡県の自伐林家グループへの聞き取り調査をもとに、それらの存在形態を明らかにし、自伐林家の組織化の意義、評価と今後の展望について、集落営林の担い手の形成という観点から明らかにすることを目的とする。</p>			
研究・事業の内容と計画	<p>本研究では、文献調査のほか、2018年に本研究代表者（興梶）が実施した静岡県内の自伐林家グループへの一斉アンケートの結果を用いて、集落営林組織への発展可能性という観点から、それらグループの存在形態を明らかにする。</p> <p>また、静岡県庁や自伐林家グループのうち存在形態ごとに代表事例を選定し、それらの代表者および構成員である自伐林家に今年度中に聞き取り調査を行う。</p>			
期待される成果	<p>これまで比較的研究蓄積の少ない、自伐林家グループの集落営林組織としての展開過程に係る社会科学研究を、村落社会学、林業経済学、協同組合論を柱としながら、森林計画学や森林育成学等の隣接分野と連携しつつ山岳科学センターで新たに行うことにより、同センターの機能強化に貢献することが期待される。</p>			
関連課題での大型研究費申請の可能性の有無	無			

<p>研究経費の内訳</p>	<p>① 関連図書購入 10,000 円</p> <p>② 静岡県における現地聞き取り調査旅費（レンタカー代及び関連経費を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安倍川流域（静岡市）80,000 円 教員 1 名・学生 2 名×2 泊 3 日 調査対象予定：静岡市林業研究会森林認証部会、鈴木林業、静岡県庁 ・大井川流域（川根本町、島田市）80,000 円 教員 1 名・学生 2 名×2 泊 3 日 調査対象予定：文沢蒼林舎、森づくり S 川根 NPO、五葉林業 ・天竜川流域（浜松市天竜区）80,000 円 教員 1 名・学生 2 名×2 泊 3 日 調査対象予定：H₂O 林業グループ、静岡県北遠農林事務所 <p>合計 250,000 円</p>
<p>外部資金獲得状況 （過去 5 年間） *代表者のみ 不採択になった研究費申請も記載する（科研費以外も含む）。</p>	<p>【採択分】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水源涵養機能を最重要視した水源林経営の再編過程：全国の水道事業者を対象に（研究代表），2019～20（採択），公益財団法人阪本奨学会／2019 年度公益財団法人阪本奨学会研究助成 2. 青少年教育施設等と連携した森林 ESD 推進体制構築に向けた調査（研究代表），2019（採択），全国社会教育職員養成研究連絡協議会／青少年教育施設等と連携した森林 ESD 推進体制構築に向けた調査に対する研究助成 3. 職業能力の「見える化」に対応した林業雇用管理のあり方に関する研究（研究代表），2016～18（採択），科学研究費助成事業／基盤研究（C） <p>【不採択分】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域森林の社会的管理への参画と林業技能習熟過程の多様化に関する調査研究（研究代表），2020（不採択），公益社団法人国土緑化推進機構／令和 2 年度「緑と水の森林ファンド」公募事業助成
<p>主な研究業績 （過去 5 年間） *代表者 10 件以内、参画者 5 件以内</p>	<p>（代表者）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 十川陽香・興柁克久（2021）「武道用木刀の生産および流通の現状と課題」『林業経済研究』67（3）：39-49 2. 興柁克久・許銘元（2021）「林業における能力評価の現状と課題」『木材情報』361：12-16 3. 島崎野乃子・興柁克久（2020）「広がる『森のようちえん』の輪と保育者養成」『山林』1636：41-49 4. 平田菜生・興柁克久（2020）「地域の森とヒトをつなぐ木育－熊本県小国町のウッドスタート事業を事例に－」『木材情報』347：19-22 5. 殷静冬・興柁克久（2020）「木の駅プロジェクトの現状と課題－地域通貨の視点から－」『木材情報』351：pp.14-18 6. Yoshida Mika and Kohroki Katsuhisa（2019）Forestry machine sharing system in self-employed forestry. Journal of Forest Research 24(2): 71-76 7. Akie KAWASAKI and Kohroki Katsuhisa（2019）Mechanization strategy of small-scale contractors in Japan. EXCEEDING THE VISION: FOREST MECHANISATION OF THE FUTURE Proceedings of the 52nd International Symposium on Forestry Mechanization：417-421 <p>（参画者）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋渉・興柁克久（2020）「自伐型林業への新規参入の現状と課題：文献レビューを中心に」『林業経済学会 2020 年秋季大会学術講演集』林業経済学会：36-39 2. 山口広子・興柁克久（2022）「横浜市有志水源林における事業展開と課題：1990 年代以降の経営方針の転換に着目して」『森林計画学会誌』：印刷中（2021 年 8 月 18 日受理）
<p>備考</p>	<p>参画者：山口広子、農学学位プログラム、2 年</p>